

広島大学大学院教育学研究科

共同研究プロジェクト 報告書

(第14巻)

平成28年3月

広島大学大学院教育学研究科

巻 頭 言

本報告書は、部局長裁量経費による平成 27 年度共同研究プロジェクトの成果報告書である。

14 巻目となる本報告書は、平成 14 年度の『リサーチ・オフィス共同研究プロジェクト報告書』第 1 巻に始まる。広島大学では平成 12 年度に教育学研究科と学校教育学研究科が統合・再編された。これを機に、リサーチ・オフィスを立ち上げて、研究科として取り組むべき研究課題を指定し、共同研究として関連研究の推進・支援を図った。具体的には、研究科に所属する教官が研究組織を組んで応募する場合と、オフィスが依頼する場合があります。必要度と重要性に応じて研究費が与えられた。

二年後には大学が法人化され、中期目標が設定された。共同研究プロジェクト制度はそれらを達成するための一つの策として有効に活用され、研究推進に大きく貢献している。また、教育をめぐる様々な状況が変化するに即応して研究課題を指定し対応してきたことも、本制度の重要な意義である。さらに、当初より、異なる講座に所属する教員が共同研究を行うことによって組織構成員のつながりがいっそう強固なものとなっていることも副次的な効果として挙げておきたい。

本年度は次の通り実施された。

1. 研究課題の公募と研究カテゴリー

年度初めに共同研究プロジェクトとして進められる研究課題が公募された。特に「平成 27 年度 教育学部・教育学研究科 中期目標・中期計画」「2 研究に関する目標」に基づき、次の研究を優先することが明示された。

- (1) 異分野の融合による独創的な研究
- (2) 教科、学校種を超えた教育の創出につながる研究
- (3) 教育学研究科の新しい取り組みとして内外に提案できる研究
- (4) その他、教育学研究科にふさわしい研究

2. 採択された研究課題

上記の応募に基づき、次の 15 件の研究課題が採択された。

| 課題番号 | 研究代表者 | 研究課題名 | カテゴリー |
|------|-------|---|-------|
| 1 | 池野 範男 | 学習システム促進プロジェクト(2 年次/3 年計画) | (1) |
| 2 | 岡 直樹 | 子どもの学び支援を通じた学生教育の改善に関する研究 | (4) |
| 3 | 鈴木 明子 | 教員養成における教科教育と教科内容との連携を図ったプログラムモデルの構築に向けて(1) 一家庭科・社会科・理科からのアプローチ | (2) |
| 4 | 山崎 敬人 | 小・中学校における教育課程の弾力化に対応した教科等の指導法と教員養成のあり方に関する基礎的研究 ―「小学校英語」の導入に焦点をあてて― | (3) |
| 5 | 草原 和博 | 現代社会の課題に応える教育学研究科の拠点機能の構築に向けたパイロット研究 ―Curriculum Research & Development Center 構想の実現に向けて― | (3) |
| 6 | 丸山 恭司 | STEM教育の展開可能性に関する研究(2) | (3) |
| 7 | 由井 義通 | ESD・ユネスコスクールの普及・推進に資する教育学研究科における取組及び評価に関する研究(2) | (4) |

| | | | |
|----|-------|--|-----|
| 8 | 杉村伸一郎 | 東広島市内における幼小連携に関する実態把握と課題の解決に向けた連携システムの構築 | (2) |
| 9 | 鈴木由美子 | 教育委員会と連携した学び続ける教員の基礎・基盤を構築する初任者研修支援プログラムの開発に関する継続的研究 | (3) |
| 10 | 間瀬 茂夫 | 広島大学教育学部における教員免許ポートフォリオと「教職実践演習」の教育的効果の検証と改善 | (3) |
| 11 | 高野 恵代 | 大学教員の発達障害に対する認識および発達障害傾向のある学生への対応に関する研究 | (3) |
| 12 | 田中 宏幸 | 大学院レベルにおける教員養成・教師教育の課題 —教職高度化プログラムの成果を踏まえた教職大学院の充実— | (4) |
| 13 | 沖野 清治 | 教職大学院における実務家教員の FD に関する研究 | (4) |
| 14 | 小原 友行 | 新しいグローバル時代の教員に求められる資質・能力の育成に関する研究 —日米協働による海外での体験型教育実践を通して— | (4) |
| 15 | 桑山 尚司 | 国際協力版「授業研究入門マニュアル」の開発(3) | (4) |

※研究課題名は採択時のものである

3. 研究の実施と報告

15 件の研究課題のうち、課題番号 1・2，課題番号 3・4・5・6・7，課題番号 12・13 は、研究科長と各研究代表者との調整により、それぞれ一本の研究課題に統合された（「児童・生徒の学習の促進の研究」、「現代的な諸課題に応える教育活動の研究・開発に関する共同研究」、「大学院レベルにおける教員養成・教師教育の課題」）。各研究課題は約 1 年をかけて遂行された。その成果の概要をまとめたものが本報告書である。なかには詳細な報告書を独自に作成した研究プロジェクトもある。なお、昨年度から冊子体での配付を取り止め、広島大学機関リポジトリに登録して広く公開し、自由にダウンロードしていただけるようにした。

ここに示された研究成果が新しい研究を拓き、また、社会の要請に応えるものであることを期待したい。最後に、本報告書の作成にあたっては、専門部会の先生方と支援室のみなさんに大変お世話になった。感謝したい。

平成 28 年 3 月

広島大学大学院教育学研究科
研究・評価部会長
丸 山 恭 司

目 次

1. 児童・生徒の学習の促進の研究
.....池野 範男・他 (1)
2. 現代的な諸課題に応える教育活動の研究・開発に関する共同研究
.....草原 和博・他 (11)
3. 東広島市内における幼小連携に関する実態把握と
課題の解決に向けた連携システムの構築
.....七木田 敦・他 (19)
4. 教育委員会と連携した学び続ける教員の基礎・基盤を構築する
初任者研修支援プログラムの開発に関する継続的研究
.....鈴木由美子・他 (29)
5. 広島大学教育学部における教員免許ポートフォリオと
「教職実践演習」の教育的効果の検証と改善
.....間瀬 茂夫・他 (35)
6. 大学教員の発達障害に対する認識および発達障害傾向のある
学生への対応に関する研究
.....高野 恵代・他 (45)
7. 大学院レベルにおける教員養成・教師教育の課題 (1)
－教職高度化プログラムの成果を踏まえた教職大学院の充実－
.....田中 宏幸・他 (55)
8. 大学院レベルにおける教員養成・教師教育の課題 (2)
－教職大学院における実務家教員のFDに関する研究－
.....沖野 清治・他 (65)
9. 新しいグローバル時代の教員に求められる資質・能力の育成に関する研究
－日米協働による海外での体験型教育実践を通して－
.....小原 友行・他 (75)
10. 国際協力版「授業研究入門マニュアル」の開発 (3)
.....桑山 尚司・他 (85)

発行者：広島大学大学院教育学研究科
(〒739-8524)

東広島市鏡山1丁目1-1

発行日：平成28年3月25日

印刷所：広島市西区商工センター7-5-33
株式会社 ニシキプリント

電話 (082) 277-6954

